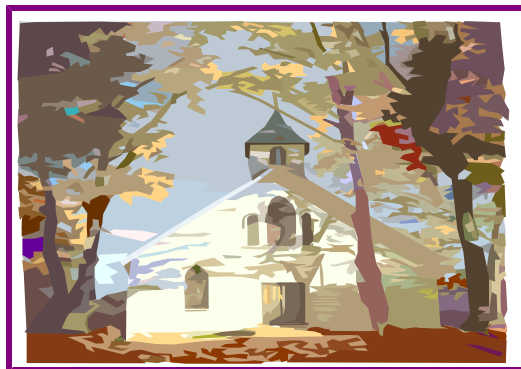


# めぐみイエス・キリスト教会

2018年10月14日(日)第二主日礼拝  
週報「通算第427号」



## 2018年標題聖句

### 使徒の働き27章22節～26節

《「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、命を失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。』》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～6時45分
聖書研究・祈祷会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年10月14日(第二主日礼拝)

第一礼拝 午前10時～11時

司会・奏楽 鈴木竜実牧師

第二礼拝 午後6時～7時

司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌339「恵みの高き嶺」 p. 538

【交読文】 No.18 詩篇第50篇 p. 892

【賛美Ⅱ】 新聖歌344「なおも御恵みを」 p. 548

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.14 「み言葉に帰ろう」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書16章5節～7節(新約p. 195)

【祈 祷】

【説 教】 《私が去って行くなら》

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ヨハネの福音書16章5節～7節)

16:5 「しかし今私は、私を遣わした方のもとに行こうとしています。しかし、あなたがたのうちには、ひとりとして、どこに行くのですかと尋ねる者がありません。

16:6 かえって、私がこれらのことをあなたがたに話したために、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。

16:7 しかし、私は真実を言います。私が去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もし私が去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、私は助け主をあなたがたのところに遣わします。」

### ●ポイント1 「私を遣わした方のもと」とは？

※ヨハネの福音書14章1節～3節「場所を備えに」 (新約p.191上段)

※ヨハネの福音書14章28節 「父の御もとに」 (新約p.192下段)

### ●ポイント2 「私が去って行く」こととは？

※マルコの福音書15章25節～31節「十字架」 (新約p.92下段)

15:25 彼らがイエスを十字架につけたのは、午前九時であった。

15:26 イエスの罪状書きには、「ユダヤ人の王。」と書いてあった。

15:27 また彼らは、イエスとともにふたりの強盗を、ひどりは右に、ひどりは左に、十字架につけた。

15:29 道を行く人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おお、神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。

15:30 十字架から降りて来て、自分を救ってみろ。」

15:31 また、祭司長たちも同じように、律法学者たちと一緒にあって、イエスをあざけって言った。「他人は救ったが、自分は救えない。」

※使徒の働き1章7節～9節「オリーブ山において」 (新約p.208上段)

イエスは言われた。

「何時とか、どんな時とかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれる時、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、私の証人となります。」

こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。

### ●ポイント3 「私が去って行くなら」とは？

※ヨハネの福音書14章16節～18節「もう一人の助け主」 (新約p.192上段)

※ヨハネの福音書14章26節～27節「私の与える平安」 (新約p.192下段)

## ◎先週のメッセージの概要【時が来れば思い出す】

《イエス様が弟子たちに言われた「時」とは、実際には、イエス様が昇天された二・三十年後のことを指しています。またヨハネでは、六十年後となります。

特にある一人の人物が大きなカギを握ります。その人物とは、ヨハネ・マルコのことです。伝承では、主イエス様と使徒たちが最後の晩餐を行ない、そして聖霊が降臨された場所でもあり、またヘロデに捕らえられ、処刑直前のペテロが、御使いによって救出された時、戻った家がマルコの家なのです。

このマルコは、バルナバのいとこであり、バルナバとパウロに愛され、ペテロにとっては、無くてはならない通訳兼同労者であったのです。

マルコはペテロのメッセージを正確に書き留めていたと言われていました。そしてペテロの存命中、紀元五十年中頃に、福音書を執筆しました。

そしてそれを参考として、紀元六十年頃にマタイがユダヤ人同胞の為に福音書を執筆し、そして次には、パウロの同労者ルカが、紀元六十二頃に福音書を書き、紀元六十五年頃に、続編である「使徒の働き」を執筆したのです。

まさに「その時」、つまりイエス様が十字架にかけられてから二・三十年後にかけて、三つの共観福音書が完成するのです。それもヨハネ・マルコと言う青年が存在していたからこそ成し遂げられたのです。そして助け主である聖霊が、マルコを用いられたことも、イエス様の預言の成就と言えるでしょう。

「助け主、父が私の名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、私が話したすべてのことを思い起こさせて下さいます。」

さらにこの預言は、生き残った最後の使徒ヨハネにおいても成就します。ヨハネが福音書を書き記したのは、紀元九十年から二世紀にかけてと言われています。何とそれは、イエス様の十字架から六十年以上後のことです。

それでは、なぜ思い出す必要があったのでしょうか。その答えは、イエス様が語られた「言葉」にあるからです。イエス様は、十二使徒に多くの言葉を語られました。その言葉が残される必要があり、また誰でも読めるようにする必要があったからです。そしてその言葉を弟子たちに、託されたのです。》

## ◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、10月21日(日)です。通常通り、第一礼拝は午前10時から、そして第二礼拝は午後6時から行ないます。
2. 次回の聖書研究・祈祷会は、10月17日(水)午後6時15分からです。